

厚労省は来年度から、百歳の誕生日を迎える高齢者に贈る記念品の「銀杯」の材質を純銀製から銀メッキに見直す方針を固めた。同省は都道府県に意見を聞いたうえで、正式に決める。

銀杯は老人福祉法が施行されて52年前の1963年度から、首相が自治体を通じ、百歳になる人に贈ってきた。施行初年度に153人だった対象者は、今年度は3万2,400人（推計値）に増加した。

純銀製の銀杯（直径約9cm）は単価が約7,600円で、予算が約2.7億円に上った。

6月に行われた外部有識者による意見交換では、「超高齢社会で本事業の妥当性が疑問だ」と批判が続出した。

これを受けて同省は、銀杯の材質を銅、亜鉛、ニッケルの合金に銀メッキを施すものにして、単価を約3,800円にし、予算を約1.5億円に抑えて約1.2億円を節減することにした。

（2015/08/27 読売新聞から）